

欧州編：

狭まる超低価格モバイル PC とスマートフォンの境界線

仕事は PC、持ち運びにスマートフォンという従来の住み分けが、超低価格モバイル PC (UMPC) の登場で変わりつつある。調査会社 IDC が、英国、フランス、ドイツ、イタリアにおける、2008 年の各国 PC 市場動向を調査したところによると、UMPC の爆発的な人気によって、PC の平均価格が下がったことに加え、大手メーカーもこぞって低価格 PC への参入を始めるなど、大きなインパクトが見られた(6 月 30 日、7 月 2、3 日付 IDC)。例えば、フランスにおける 2008 年第 1 四半期の消費者ノート型 PC 市場の平均小売価格は、前年同期比 26% 減になった(6 月 30 日付 IDC)。UMPC はさらに、スマートフォン市場をも脅かす存在だとする意見も出てきている。小型で軽い上に、キーボードを搭載、画面もスマートフォンより大きく、価格競争力もある。もちろん通話機能そのものは搭載されていないが、最近のモバイル・ユーザは従来の通話ではなく、インターネット利用を増やしている。そうした背景から、ドイツにおいては、ASUS と通信事業者 T-Mobile が戦略的な提携を行った。これは、4GB の Eee PC と T-Mobile の年間 300 時間の無線 LAN サービスを 299 ユーロで購入できるというプラン(7 月 2 日付 IDC)。また、フランスでも、モバイル通信事業者 SFR が EeePC と提携して類似のサービスを開始している(3 月 20 日付け Computerworld 誌)。